

運動器の10年・日本賞 選評

平成26年度「運動器の10年」世界運動・普及啓発推進事業

一般財団法人 運動器の10年・日本協会

平成 26 年度 運動器の 10 年・世界運動普及啓発推進事業

運動器の 10 年・日本賞 審査結果と選評

当協会では、今般の審査にあたり、理事の中から 5 名と賛助会員（ゴールド）3 社から審査員に参画していただき、下記の 8 名による審査委員会で厳正な審査を行いました。

審査委員

松下 隆 専務理事

武藤芳照 業務執行理事

稲波弘彦 業務執行理事

新井貞男 業務執行理事

三上容司 理事

寺西勝司 小野薬品工業(株) 営業企画統括部長

田中明生 中外製薬(株) フェロー（常勤顧問）

間渕清貴 日本イーライリリー(株)筋骨格事業本部営業統括部長

平成 26 年 12 月 22 日

一般財団法人 運動器の 10 年・日本協会

平成26年度「運動器の10年」世界運動・普及啓発推進事業 応募一覧と審査結果

結果	事業の名称	府県名	所 属	申請者（敬称略）
日本賞 50万円	高知県黒潮町における三世代ふれあい健診	高知県	高知大学リハビリテーション部	永野 靖典
優秀賞 25万円	受身から攻めへの発想転換：ロコモ予防の取り組みは住民の受療行動を変化させるか？-和歌山県美浜町の挑戦	和歌山県	和歌山県立医科大学整形外科	橋爪 洋
優秀賞 25万円	子どもたちの動く喜びを保育士が創る取り組み“レッツ15タイム”	長野県	長野県東御市健康福祉部 子育て支援課 「運動あそび専門保育士部会」	柳沢 和子
奨励賞 10万円	ケーブルテレビを利用したロコモティブシンドローム（ロコモ）予防	岡山県	岡山大学病院総合リハビリテーション部 岡山大学整形外科	千田 益生 尾崎 敏文
奨励賞 10万円	多職種連携「動く喜び、動ける幸せ」支援セミナー -大腿骨近位部骨折予防・治療と生活支援の取り組み	新潟県	新潟大学医学部整形外科	佐久間真由美
奨励賞 10万円	岩木健康増進プロジェクト	青森県	弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座	千葉 大輔
奨励賞 10万円	中山間地域自治体における運動器の健康の啓発と運動器検診の導入	静岡県	浜松医科大学整形外科	星野 裕信
奨励賞 10万円	お互い様の地域支援活動～水曜会の活動	東京都	東京医療学院大学	吉井 智晴

運動器の10年・日本賞 選評

「高知県黒潮町における三世代ふれあい健診」

高知大学リハビリテーション部

永野靖典氏

高齢者のための身体計測や運動能力測定などの健康診断は比較的多くの地域で行われているが、本事業は世代間交流を目指して小学生が検者として健診に参加するという点が斬新である。

健診に参加する小学生は事前に大学関係者から健康寿命の延伸のための運動器健診の意義やその方法について教育を受け健診の練習を行うことで運動器の重要性を学び、高齢者は小学生が参加することで健診への参加意欲が高まるという相乗効果を狙っている。

応募者らは平成17年度から10年間に渡って1,434名の高齢者を対象に運動器健診を行ってきた。

健診を行う小学生、それに協力する父母・役場や学校関係者・大学関係者、健診を受ける高齢者の三世代が一つとなって、町民の健康寿命の延伸に向けて官学連携事業として取り組んでいる本事業は、全ての世代に運動器が健全であることの大切さを気付かせるとても良い企画であり、運動器の10年・日本協会「日本賞」に相応しいと判定した。

松下 隆 選考委員

運動器の10年・優秀賞 選評

「受身から攻めへの発想転換・ロコモ予防の取り組みは住民の受療行動を変化させるか？－和歌山県美浜町の挑戦」

和歌山県立医科大学整形外科

橋爪 洋氏

高齢化の急速な進展に伴う要介護者の急増への対応が、わが国の喫緊の課題であることは論を待たない。しかし、運動器の障害が、要支援・要介護の原因として第1位であることは、意外に知られていない。橋爪氏は住民に対して、氏らが開発した体操プログラムの実技指導と講演を行い、さらに自主サークルの支援活動等の継続的な介入を行い運動器の重要性を啓発するとともに、得られたデータからロコモ25とSF-8が改善したことや、医療経済的観点からの分析で、住民の受療行動が変化したことを示した。地域への啓発、普及活動を主体としつつ、さらに科学的な手法で有用なエビデンスを示した。今後の更なる事業の発展と、データの集積・解析に基づく新たな取り組みが期待される。優秀賞受賞にふさわしい事業である。

三上 容司 選考委員

運動器の10年・優秀賞 選評

「子どもたちの動く喜びを保育士が創る取り組み “レッツ 15 タイム”」

長野県東御市健康福祉部子育て支援課
「運動あそび専門保育士部会」

柳沢 和子氏

本協会の標語は「動く喜び 動ける幸せ」である。本事業は、子どもたちが「運動あそび」を通して、楽しみながらからだを動かす機会を増やし、将来にわたる運動器障害の発症予防や運動不足に伴う健康障害の予防、ひいては生涯にわたる運動・スポーツの習慣化や健康増進に結びつけようというものである。

市内公立保育園全体の取り組みであり、当初は運動指導者が深く関わっていたが、6年の間に、保育士自身が主体的に企画・運営するように発展していること、全国の保育・幼児教育を担う現場に幅広く応用可能であること、本協会が長年推進してきた学校での児童生徒の健康診断に運動器の検査が必須化されたこの時期にふさわしいこと等が高く評価された。

武藤 芳照 選考委員